

1. コラム「論点提起」：新年の夢 ～自律した「個」、そして「集合知」や如何～

新年を迎え、コロナ禍も3年余を経過し、ようやくエンデミックに向かいつつあるかに見えたが、昨年末(12/7)の中国の「ゼロコロナ政策」の突然の変更は3年遅れの感染爆発(100~200万人規模の感染死者数の予測)を引き起こし、世界への再波及が危惧されている。ロシアのウクライナ侵攻も長期戦争化し、世界的な地政学リスクを助起し、世界の枠組みの溶融・再編化を加速し、グローバルゼーションを終焉させ、「新しい戦前」という世界像さえ想起させている。

日本周辺・国境には、日本海への北朝鮮のミサイル、尖閣諸島周辺領海域への中国公船の侵入等、リスクが高まっている。こうした中、国内においては、過去の歴史・失敗に学ばず、現在及び今後の実態・見通しやビジョン・戦略を広く国民に説明・議論・共有することなく、各種重要政策(防疫政策、原発政策、防衛政策、財政政策等)が変更・決定されている。重要な記録・資料・公文書が廃棄・改ざんされ、国の基幹統計・一般統計での不適切処理が長期にわたって行われ、現状認識や政策立案・判断を歪めたり、将来における歴史的検証の可能性すら摘み取っている。当事者としての矜持や組織ガバナンスの欠けた緩んだ空気感が漂っている。

このまま「ゆでガエル」となるのであろうか。 ” Not yet ” 。経済成長が止まってからすでに30年余(一世代)が経過した。高度成長期の「組織(企業、家族等)」ベースの仕組みで過ごしてきた世代、人口急増期のコアであった団塊の世代からの過渡期時代が過ぎ、新たな世代による時代づくりに入る時期が到来している。世代代わりを機に、新たな世代の「個」をベースとした仕組みづくりに本格的に転換しても良いのではないだろうか。企業・家族中心主義は独居高齢者家族が太宗となっている現在、すでに崩壊している。住宅の固定電話は個々人の携帯電話に切り替わっている。副業・複業、テレワークは企業中心主義から、「個」中心主義への移行の先行事象かもしれない。コロナ禍、ウクライナ侵攻/戦争はそれを加速する機会と捉えたい。

「人類史上、文明の転換点には、常に感染症の拡大が関わっていた」(国立民族学博物館長 吉田 憲司) <https://tinyurl.com/2ahm4vfr>。人口は減っても、ICT・AI、ロボット、ドローン等で補える。ネットでつながれば、総つながり人口(Rial+Virtual)は増える。規模(売上高)の追求ではなく、成長の源泉である付加価値(利益)の創出に注力することにより、一人あたりの生産性を向上させることができ、給与水準も上げられる。一人ひとりの存在価値が増す人口急減少時代は、「個」としての自律が求められ、そうした自律した「個」が連携(集合知化)することで「組織」が強くなる。その集合空間としての「地方」「日本」が強くなる。

日本の現在地として「日本は世界の辺境の地、生き残る道は世界の古都」(ノンフィクション作家 高野秀行) <https://tinyurl.com/2z1z4cgt> と評されるが、辺境にこそイノベーションは興る。国際的には日本発リバーイノベーション、国内的には地方発イノベーションである。

新年にあたり、後ろ向きではなく、前向きに考えてみたい。個の時代・集合知の時代こそ、日本の時代と考えたい。いまこそ、地方創生・日本創生に向け、一人ひとりの自律した” Think & Do ” が問われている。Japa はそうした “Think & Do” を支援・応援したい。今年の初夢や如何。